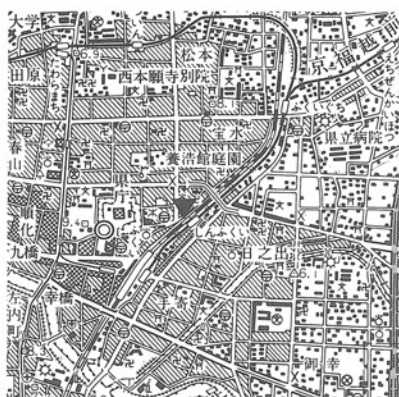


# 福井・福井城跡 (1)

- 1 所在地 福井市大手一丁目
- 2 調査期間 一九九八年(平10)六月～九月
- 3 発掘機関 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 河村健史
- 5 遺跡の種類 城郭跡(武家屋敷地)
- 6 遺跡の年代 江戸時代、近代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(福井)

調査は、一九九六年度からの継続事業であるJ R福井駅付近の連続立体交差事業、およびその側道の改良工事に伴うものである。今回報告する木簡などが出土した地点は、九七年度調査地(本誌第二〇号)の南西に位置する。調査地は、江戸時代は福井城の東方にあり、数多く残る絵図類によれば、堀・北人分門・武家屋敷地であったことがわかり、江戸時代を通じて地

割の変化はなかったようである。

堀の石垣、砂利敷舗装道路、屋敷地内の石組み井戸・上水道施設(竹管など)や土坑・園地とみられる遺構が検出されたが、全体的に遺構の遺存状態は悪かった。遺構の多くは主に江戸時代後半と考えられるが、石組み井戸のように一七世紀のものも見られる。今回検出された屋敷地は門跡より低い場所に位置するため、近代に入ってから、大量の近代の遺物とともに全面に厚く盛土がなされていたが、この盛土内より「武田耕雲斎之死塚」などと墨書された小石が出土している。

木簡は石組み井戸九〇七、堀と直交する溝九〇六、堀及び整地土中から出土した。その他、肥前産の食器類や越前産の調理・貯蔵具など生活に関する焼物類や、暖房器具の行火であるバンドコなどの石製品、漆塗り椀や下駄・箸などの木製品が出土している。

## 8 木簡の釈文・内容

### 井戸九〇七

(1) 「□□」

86×(22)×1 081

### 溝九〇六

(2) 「□」

84×(21)×2 019

### 堀

整地土 (3)

拾  
[三力]  
×□

(73) ?  $\times (354) \times 6$  081

(4) 「公園新地境界」

●  
「  
□<sub>1</sub> □<sub>2</sub>」  
私力  
公園新地敷地

表(イ)第三号

明治三十五年七月之立□□

立私  
公園新地敷地

〔面力〕  
(イ)第三号 地所

236×26×23 061

(5)

〔新地境界力〕

明治力

「□□三十□年□月立之」

・「公園新地境界」

「公園新地敷地」

141×23×19 061

(6)

井通  
ハマ  
御中

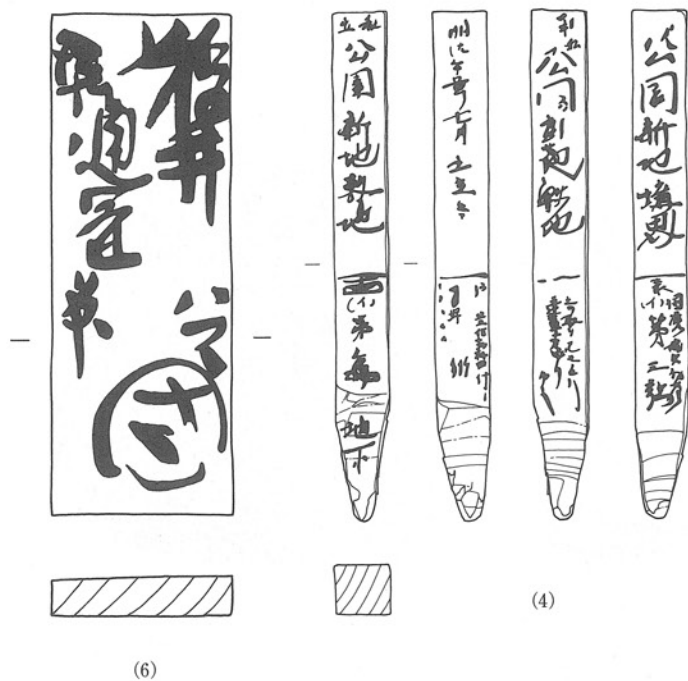
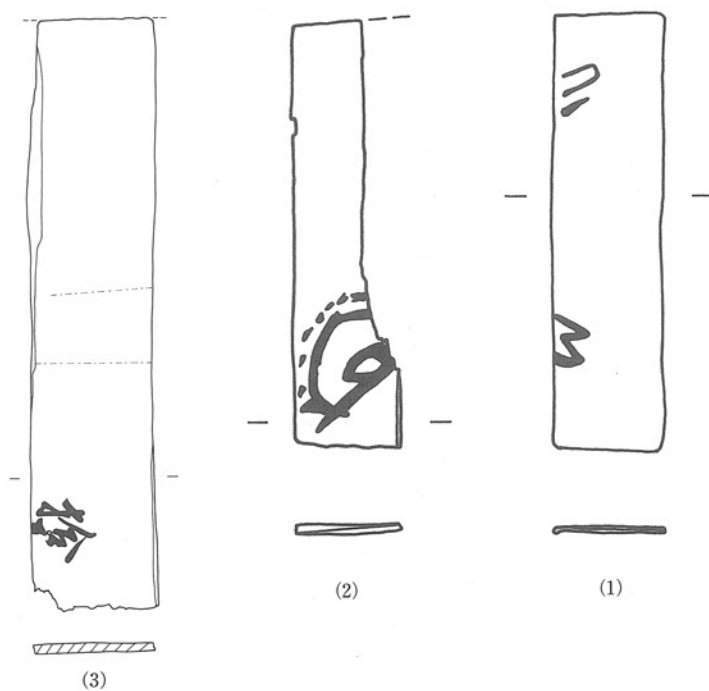
170×38×13 011

(1)は石組み井戸廃絶時の埋戻し土内から、一七世紀後半の陶磁器とともに出土した。(2)は共伴遺物から一九世紀と考えられる。(1)(2)



「武田耕雲齋之死塚」石（縦6.8cm、横6.2cm）

とも何らかの記号かと考えられる。(3)は堀の堆積土内より出土している。共伴遺物は幕末～明治期のものである。(4)～(6)および「武田耕雲斎之死塚」石は、先述のとおり、明治期の整地土内に混じり込んだ状態で検出された。(4)(5)は公園の境界杭である。



なお釈文は、福井県立博物館笠松雅弘氏、山形裕之氏のご教示を得た。

## 9 関係文献

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター『第一四回発掘調査報告会資料』(一九九九年)

(本多達哉・河村健史)